

成果の説明書

(氏名) 吉武信彦	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>以下の研究活動を行なった。</p> <p>(1) 本・論文</p> <ul style="list-style-type: none">・(共編著) 村井誠人、大島美穂、佐藤睦朗、吉武信彦編『映画のなかの「北欧」——その虚像と実像——』小鳥遊書房、2019年11月、294頁。・(単著) 「ノーベル賞の国際政治学——ノーベル文学賞と日本、谷崎潤一郎をめぐる推薦と選考 1958～1965年——」、『地域政策研究』(高崎経済大学)第22巻第4号、2020年3月。 <p>(2) 学会など</p> <ul style="list-style-type: none">・司会、「第2分科会 北欧政党政治の変容、鈴木悠史『右派連合の盛衰とスウェーデン政党政治の変容——保革陣営の政策的収斂——』、塩田潤『金融危機とアイスランド政党政治の変容——運動政党の台頭は何を意味するのか——』、北ヨーロッパ学会2019年度研究大会、龍谷大学、2019年11月16日。・津田塾大学大学院国際関係学研究科博士論文の審査委員(2020年度まで)	
<p>2 その他の事項</p> <p>特になし。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>講義、演習においていかに多くの専門書を読ませるか、前年度から引き続き思案中である。4年生の演習においては、多くの学生が就職活動と並行して卒論の中間報告に熱心に取り組んでくれた結果、全体的に質の高い卒業論文の完成につながった。2020年度の演習もこの流れを維持し、先行研究の読破、討論、プレゼンテーションの機会を多く設けたい。</p> <p>研究面では、フィールドワークに基づいた研究を着実に積み重ねたいと考えているが、2020年3月予定の調査出張が新型コロナウイルスの蔓延で中止せざるを得なかった。2020年度に再開できるよう、準備を進めたい。</p>	